

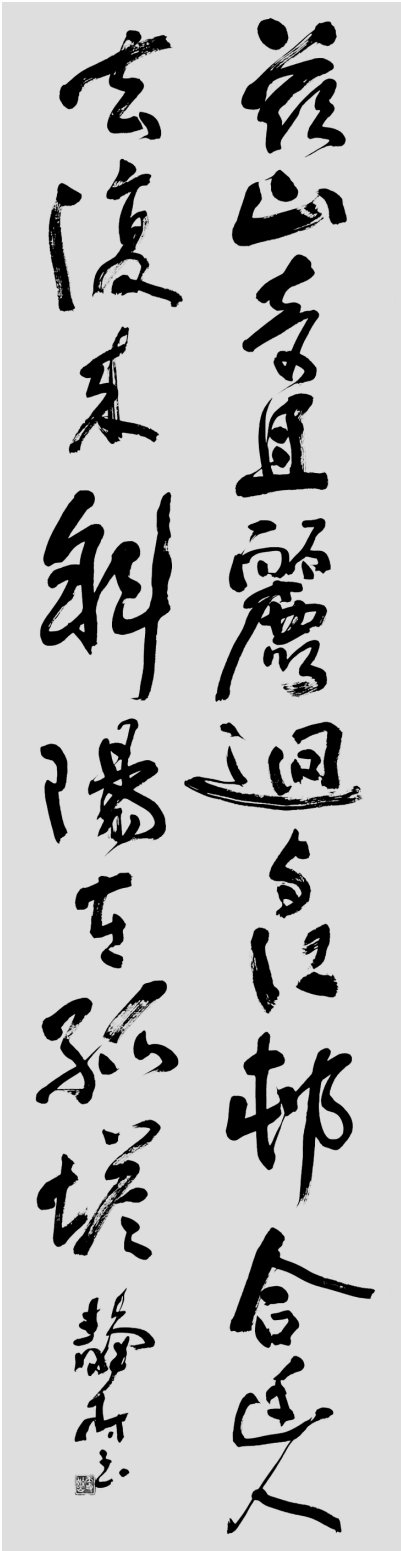
A  
高橋 香樹 先生 書

茲山奇且麗 迴與江村合 幽人去復來 斜陽在孤塔 (袁景休)  
 茲の山奇にして且つ麗なり、迴かに江村と合す。幽人去つて復た來り、斜陽孤塔に在り。



B  
鈴木 静村 書

二十字の課題。通常は一行目十一字、二行目九字の配字にすることが多いかと思いますが、今回は、あえて十字づつの配字としました。墨継ぎは「江」と「来」。連綿線は五ヶ所。文字の大小に意を用い、行の流れを意識した構成としました。「斜」の末画は筆の裏で三呼吸にて連筆。



久しぶりの五言絶句(20字) 字間のつめ方、大小等、2×8サイズ(25×52cm)に2行書くときの縮小作によい。このサイズの用紙は日展、毎日展、サンケイ、読売、もちろん同文にも標準サイズの一つ。この作墨継ぎは江と斜。私の好み、みなさん拘わりなく。邨(村)字使用。人の払い頼りなし、失敗。孤塔の書き方多様、字典で選出を。訳:この山は変わった形をした美しい山で、はるかに川沿いの村へと続いている。風流を愛する人が今も行き来し、夕日の中に塔が浮かんで見える。

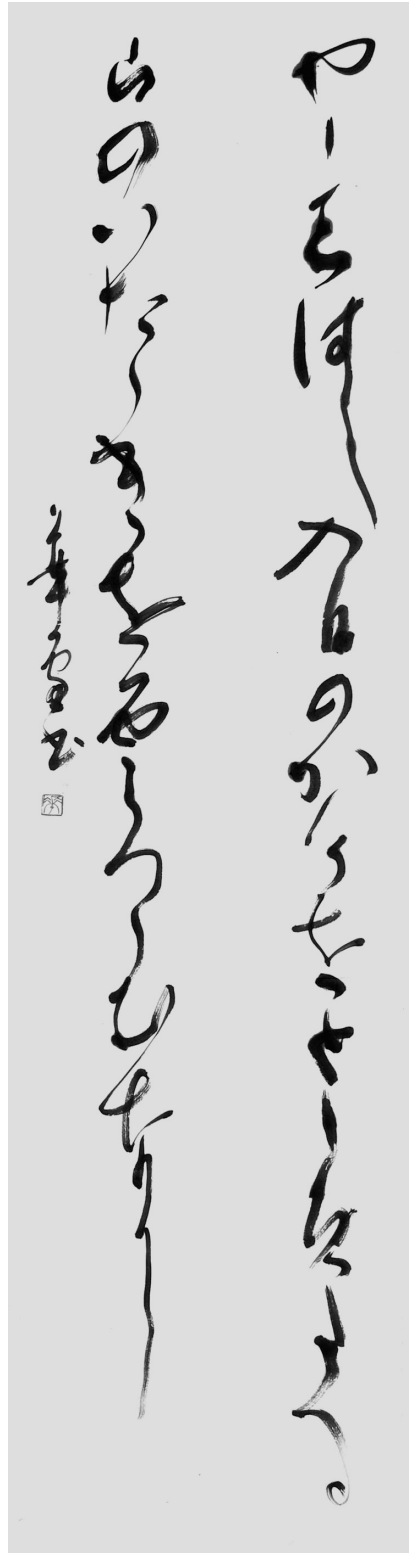
予告 (十一月二十二日締切) 可憐舉目非吾黨 誰與開樽共一杯 (蘇東坡)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

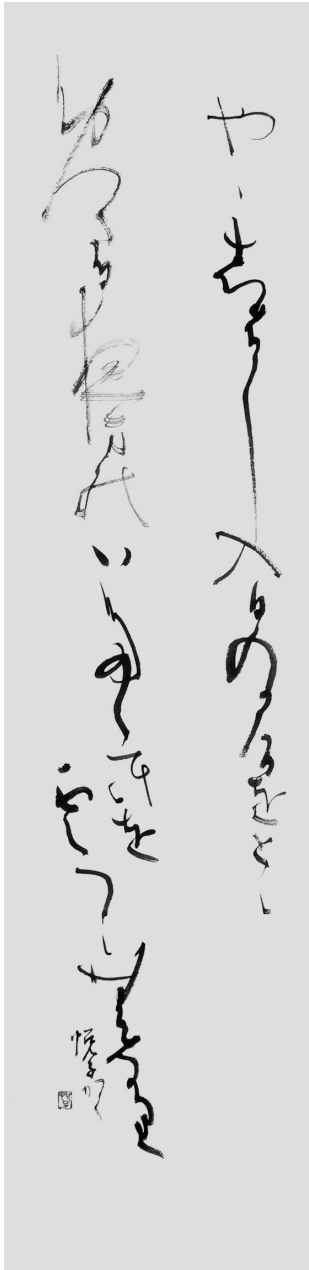
やや暫し入日の影をとどめたる山の頂を雲つつむなり(土田耕平)  
や、志はし入日のか介をと、免多る山のいた、きを雲つ、むなり



B

長野悦子先生書

や、志者し入日の可介をと、免多る夜万能い多、幾を雲つ、無奈里



学 び 方

自然に対するこまやかな観察、诗情豊かな一首を、三行書に表現してみました。  
書き出しの「や、」は筆先を利かし細めの線で、「志者し入日」は筆を立てて流れに添わせ「の可介」は連綿で次に続けます。  
二行目の「免多る夜万能」は大胆に渴筆で強弱をつけます。「い多、幾を」は墨を入れポイントとします。終盤の「雲つ、無奈里」で右側に寄せ全体を引き締めます。

土田耕平 清澄繊細は写生にもとづく詠風をもつ。大正期の「アララギ」の代表的な歌人。十一才で父と、十八才で母と死別。  
一九二一年(明44)年、下諏訪小学校の教員となり、島木赤彦と出会う。翌年「アララギ」に入会、十三年上京。東京中学に通うかたわら「アララギ」の編集に従事する。  
「アララギ」一九〇八年(明41)年創刊の短歌誌。同誌に拠る歌人集団を輪郭的にさす。

予告

(十一月二十二日締切)

秋はつる枯野の虫のこゑたえばありやなしやを人のとへかし(千載和歌集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

木落ちて秋雨かと疑う(李應徴)

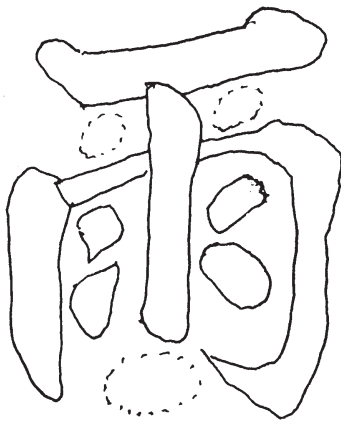
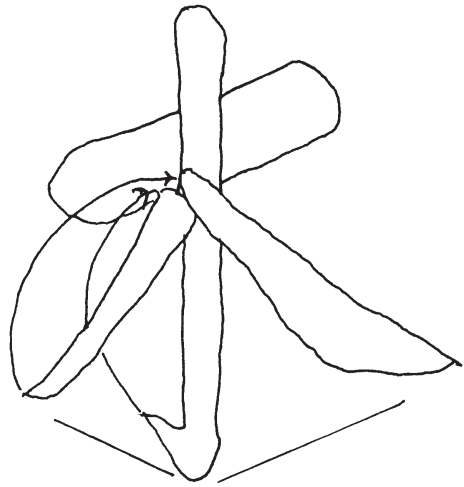
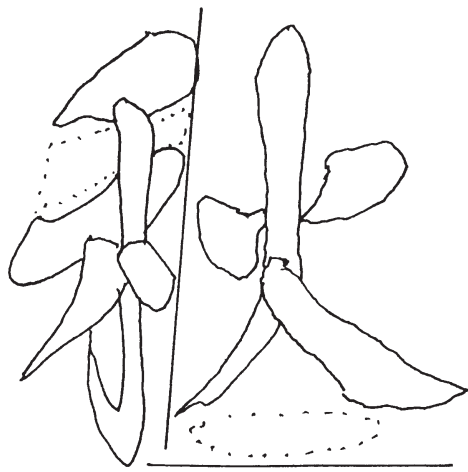


訳…木の葉が散って、まるで雨のようである。

▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

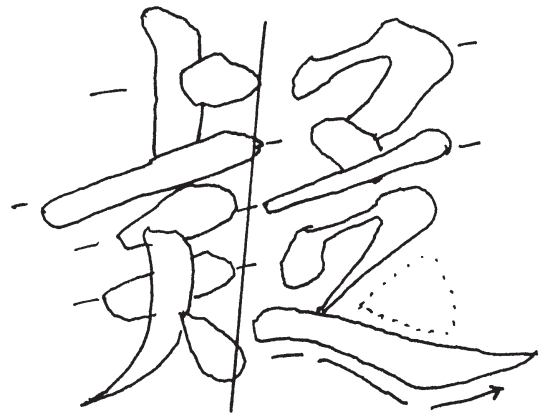
- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



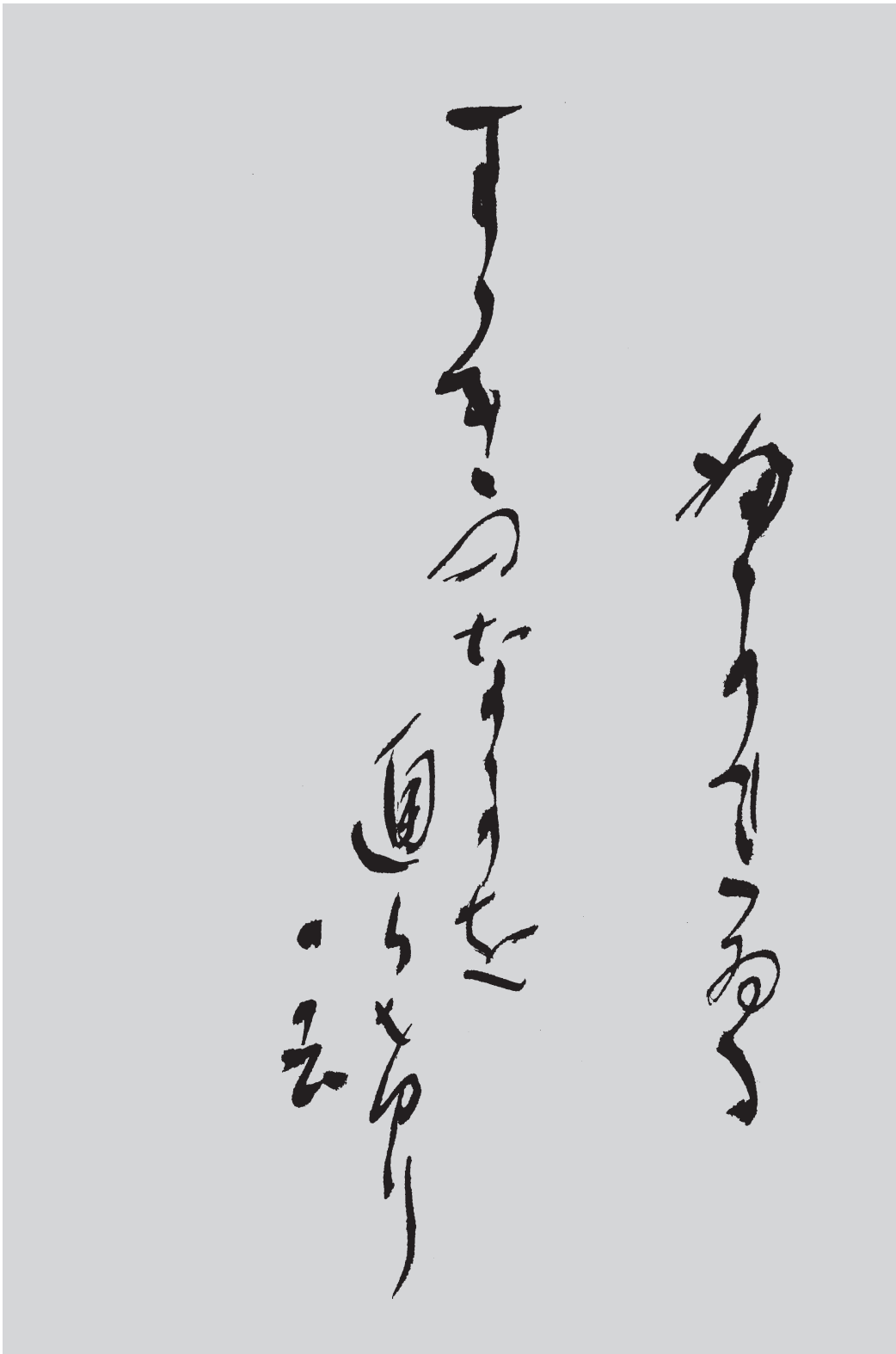
右松は、いつて

右松は、主画とする四文字、字配りの上での工夫が必須。しかしこの意識を刺す全体が善結せぬと、左下「木」秋の左右松の接觸は留まらぬ。



平岡華雪先生書

吹かれぬすすきの中を通りけり(星雲子)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

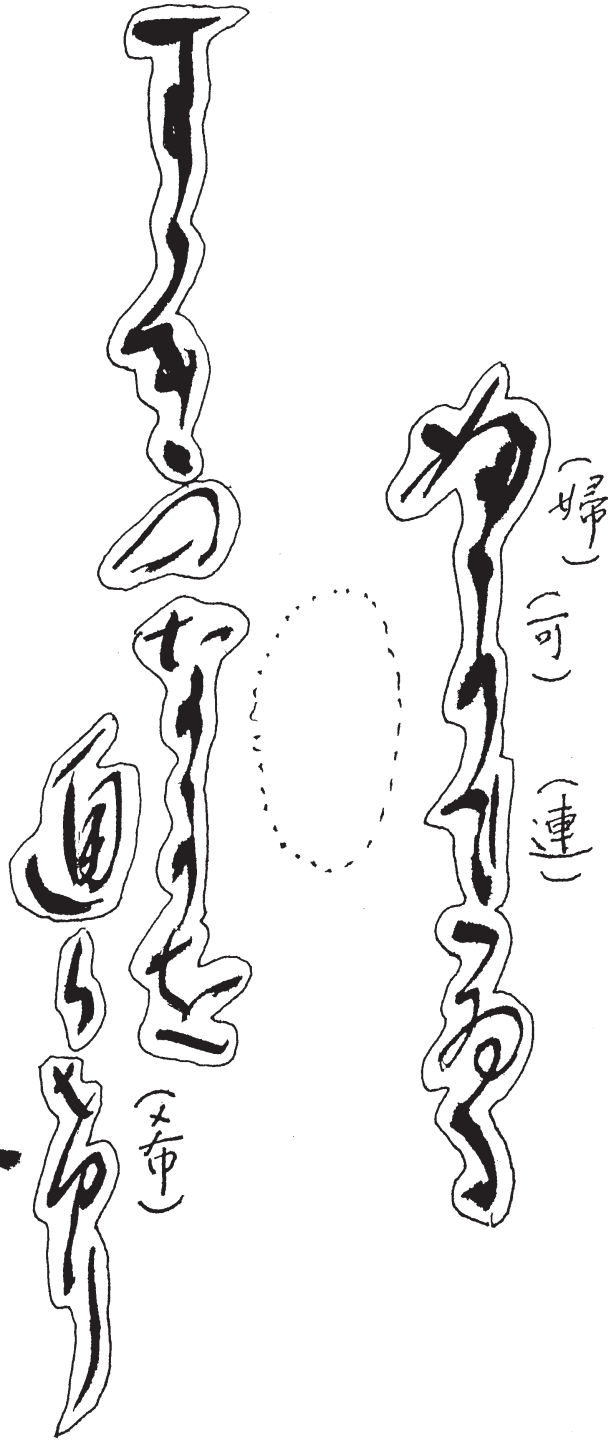
- ① かな部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

「な」の「ナ」の振幅。下五、二つの「リ」の相違性に留意すること。  
 「な」の「ナ」の振幅。下五、二つの「リ」の相違性に留意すること。  
 「ナ」の「ナ」の振幅。下五、二つの「リ」の相違性に留意すること。  
 「ナ」の「ナ」の振幅。下五、二つの「リ」の相違性に留意すること。

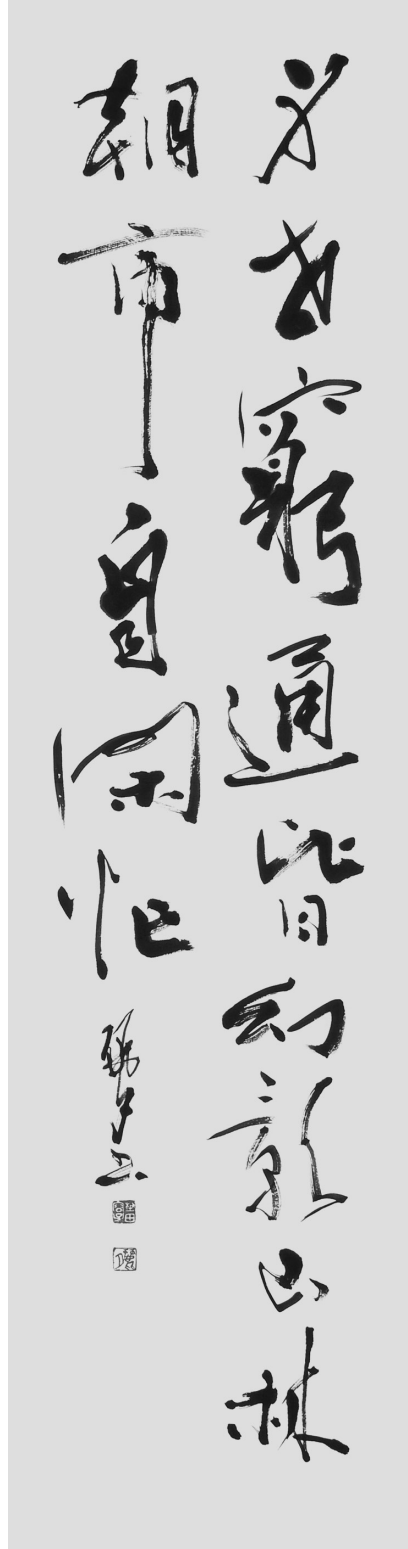
書くつとに味わいをー

ー  
 ー  
 ー



野田麗夕先生書

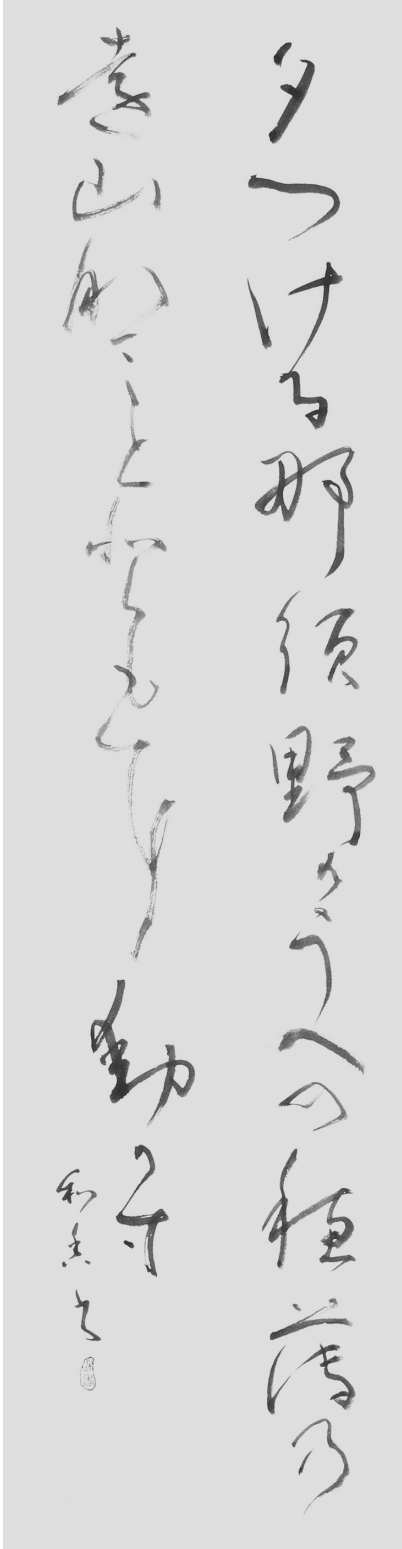
身世窮通皆幻影 山林朝市自閑忙（楊雲翼）  
 身世窮通皆幻影 山林朝市自閑忙



訳：この世に在る身の不遇や立身は皆はかないまぼろしやかけ、山林と市街は自然と閑と忙とに分れる。

内田和香先生書

夕づける那須野がうへの穂薄の遠山なみとともに動かす（窪田空穂）  
 夕づける那須野がうへの穂薄の遠山なみとともに動かす

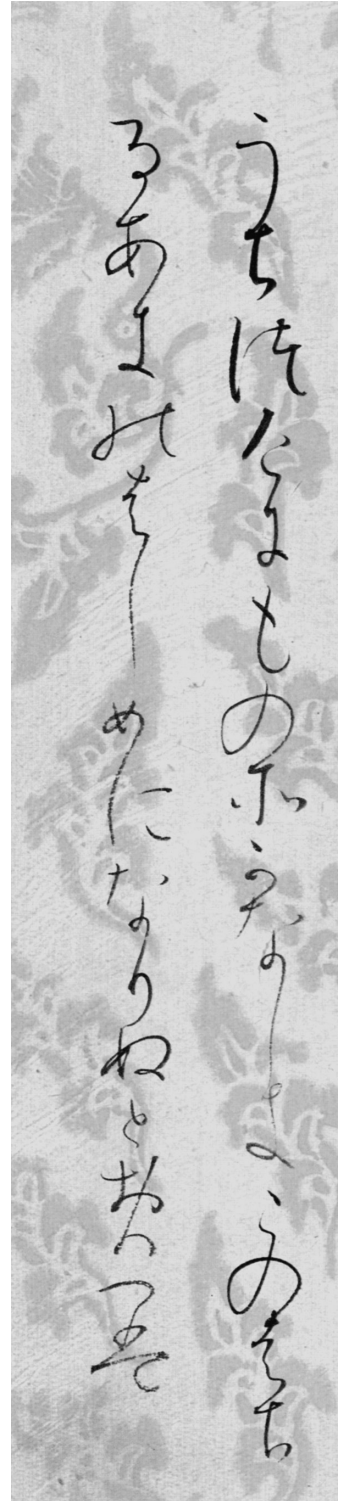


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

# 題 課 部 書 臨 幅 条

北島 菁丘 先生 担当 粘葉本和漢朗詠集(巻上) 伝藤原行成筆

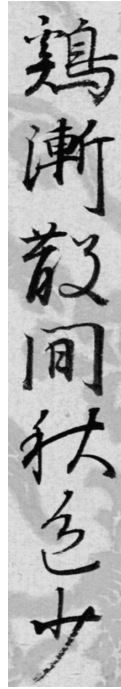
※条幅臨書部は出品料無料です。



鶏漸散間秋色少、

徒介尔 所可 支 者 支能者 无 盤  
うちつけにもものぞかなしきこのはちるあきのはじめになりぬとおもへば

(二五社)



## ◎書風について

高野切三種と同筆と言われる書風で、字形が端正、連綿は明朗快活単純、運筆も速度感あり、淡雅な書風を呈しています。漢字は楷行草細身で澄み切り格調が高く、仮名とよく調和しています。

## 〈粘葉本和漢朗詠集について〉

平安時代中期は遣唐使廃止(八九四年)後、和様へと書文化は著しい発達を遂げました。文化の爛熟した時代で、詩を吟じ歌を朗詠する事は、貴族の大切な教養の一つであったが故に、『和漢朗詠集』の成立を見たのです。筆者行成(九七二—一〇二七年)の伝承とされ、中期名筆家三跡の一人です。漢詠では白居易・和歌では貫之・躬恒・人麿・中務等が詠われています。

曲がりに注意

ふところ広く

幅を締める

すっきり

筆圧の変化

回転大きく

粗 密

幅の変化

省略連綿

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。



星野春陽先生書

朱槿一籬花（楊基）  
朱槿一籬の花。

朱槿一籬花  
朱槿一籬花  
朱槿一籬花

星野春陽  
書

訳…赤い花の木槿はかきねに美しく咲いている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

風  
信  
帖

空  
海  
書

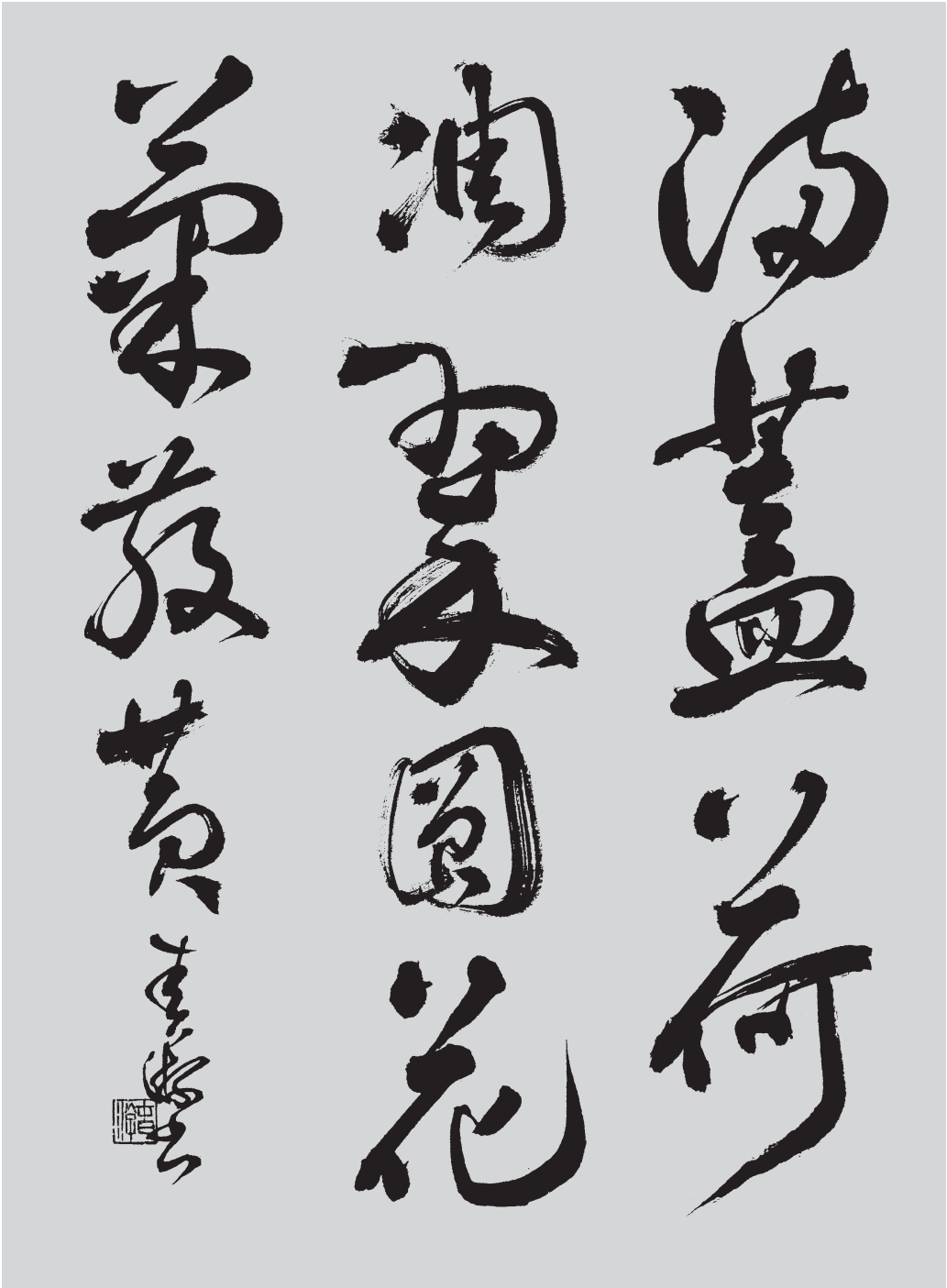
不能東西  
東西する能わず。



◆随意部参考として出品してください。

手代木春游先生書

満蓋荷凋翠 圓花菊散黄（高宗）  
満蓋荷翠を凋い、圓花菊黄を散ず。

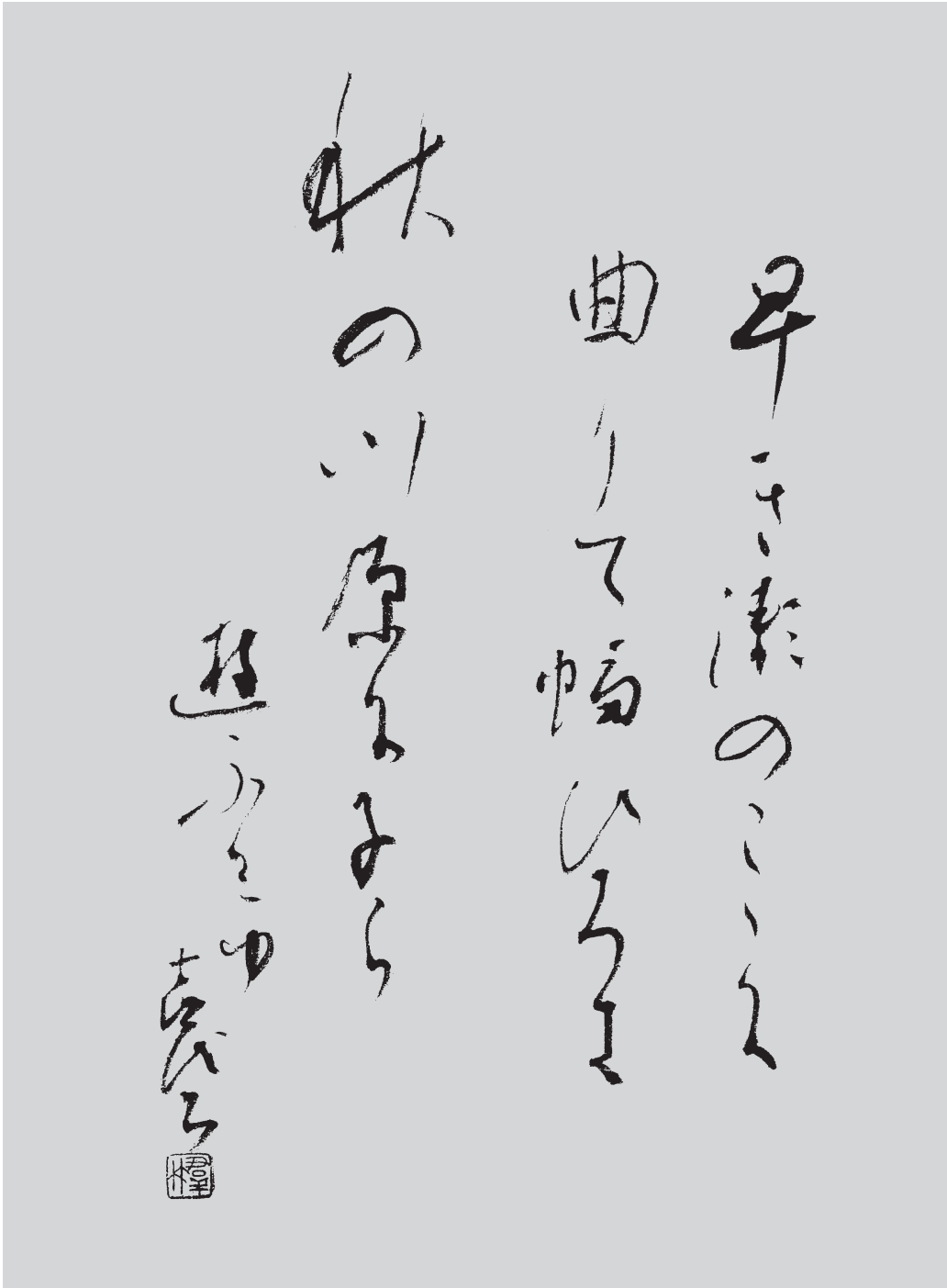


訳：絹がさをさせるが如き蓮の葉は枯れて緑をそこない、丸い花の菊は咲きそろってこがねを散ずるに似ている。

添削又は手本希望者は本会規定により、手代木春游先生（〒359-1118 所沢市けやき台1-49-14）に直接お申し込みください。

池田群竹先生書

早き瀬のここに曲りて幅ひろき秋の川原に子らあそぶ見ゆ（若山牧水）  
早き瀬のこゝ、尔曲りて幅ひろき支秋の川原尔子ら遊ぶ三ゆ



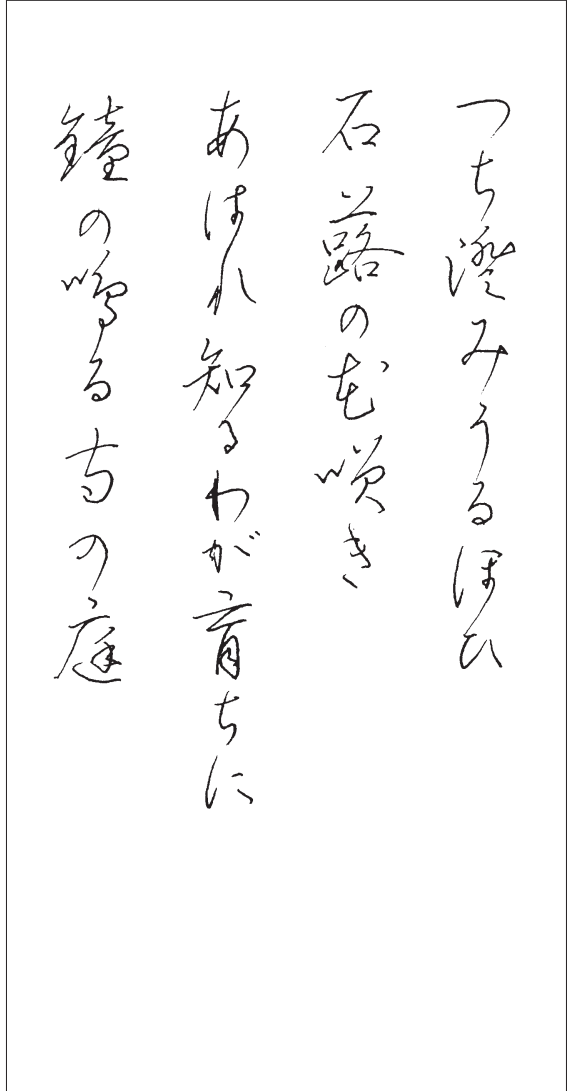
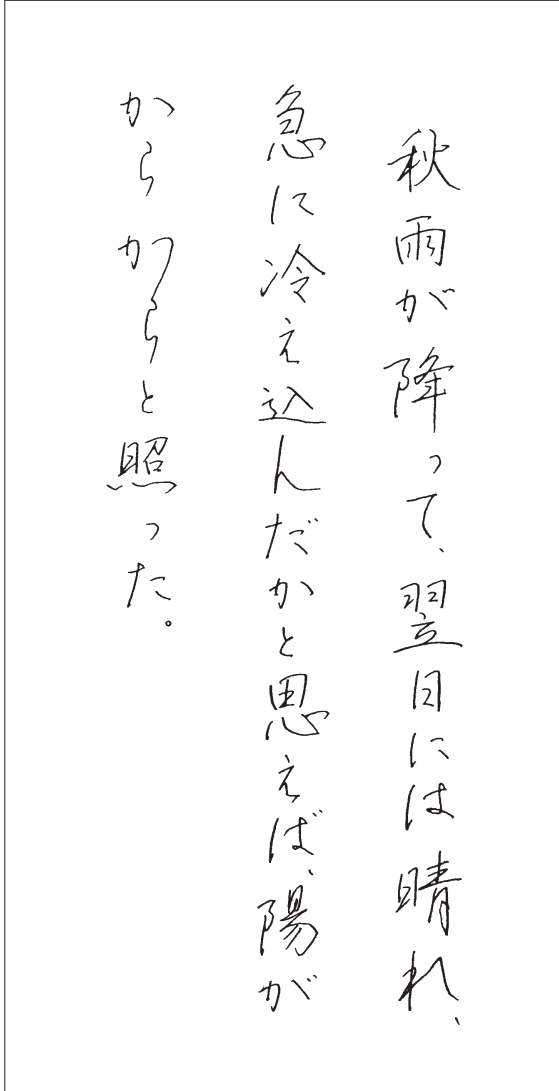
添削又は手本希望者は本会規定により、池田群竹先生（〒158-0093 世田谷区上野毛4-19-2）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

つち澄みうるほひ

石路の花咲き

あはれ知るわが育ちに

鐘の鳴る寺の庭

室生犀星「抒情小曲集」寺の庭

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。

(2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。

(3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新

(4) 会員は無料・会員外は四〇〇円

(5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。

課題1 六〇〇円

課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 二〇七〇〇三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 二七七一〇二六

前橋市城東町一―二九一五

課題2 (初段階以下)

秋雨が降って、翌日には晴れ、急に冷え込んだかと思えば、陽がからからと照った。

「日暮らし」宮部みゆき